

## 公民館の創世記 2

青島一雄

昭和 24 年、市庁舎が現在地へ移転した跡へ「熊谷市公民館」が設置され、職員も置かれたのが教育機関としての公民館の第一歩であった。設置条例化にあたっての問題は館数であった。旧村地域は一館までと決まったが、市街地は活発な館、お祭りの町内、商店街の結束等、統合は困難で、結局そのままとなった。

当時県下唯一の戦災都市熊谷にとって、すべてが新しく、すべてが重要課題であった。戦災復興・六三制の学校建設・民主主義思想の普及等、当初、課長以下三名の教育課も、順次増員されてはきたがなかなか追いつかない。私もナトコ映画巡回、レクリエーション指導普及、文化財保護、婦人会、文化団体などの育成、各種大会の係、学校地買収事務等、なんでも屋だった。27 年、教区委員会が発足して課制がしかれ、各係が決まってホッとしたのも束の間で、中条、奈良、別府、三尻、吉岡、太井、星宮の合併もあって仕事も増大したと同時に、実態のない公民館も 28 館、全 29 館の大世帯となった。

忘れた訳ではないが暫く地区の奉仕と活動に期待していた地区公民館も、中央公民館の新築に続いて、昭和 41 年に三尻公民館の新築落成を皮切りに、毎年のように新築整備されるようになった。

(熊谷市公協だより 第 27 号 平成 9 年より)